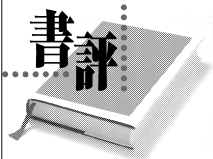


書評



佐藤光源 監訳

米国精神医学会治療ガイドライン クイックリファレンス

平安良雄

標準化された精神科医療を習得・実践するために

米国精神医学会は精神科領域において最もよく経験する 10 の疾患や病態に関する治療ガイドラインを、臨床現場で手軽に用いられるようにまとめたクイックリファレンスを発行した。本書は東北福祉大学大学院の佐藤光源教授の監訳によって翻訳された日本語版である。

わが国の精神科医療においてこれまでしばしば指摘されてきたことに、診療医または診療施設間の診断や治療方針、家族への対応などにばらつきが大きいという問題があった。この原因として、医師の教育・研修・生涯教育に一定の基準がないこと、さらに、特定の疾患に対して標準化された治療ガイドラインの必要性が十分に理解されていないことなどがあった。ガイドラインに対しては、賛否両論があり、精神疾患の多様性を公式にのっとりた治療方針で解決することはできないというのが反対理由の一つである。しかし、この反論はガイドラインの趣旨を誤解していると思う。

本書に目を通していただければ、前述の反論が的外れであることがよく理解できる。ガイドラインは一定の公式に基づいて治療することを意味するのではなく、多様な精神疾患の病態をさまざまな角度から評価し、診断し、治療方針を立て、治療効果を評価し、さらに、個々の患者さんに応じた支援や疾患管理教育の方針を、

エビデンスに基づいてもれなく合理的に進めていく手法を提供するものである。したがって、ガイドラインを用いることで、誰が治療をしても同じプロセスを経て疾患や病態が評価され、基準に基づいた治療方針が策定されることになる。治療の実践に関しては、それぞれの施設の環境や地域の社会資源によって当然違いは出るが、ガイドラインを一つの理由として治療環境の整備を行政などに働き掛ける材料とすることもできる。

また、本書は評価・診断から治療そして社会資源を用いた介入までを簡潔にまとめてあるので、クリニカルパス策定などにも参考となる。医師が治療方針を作成するうえで、急性期の治療のみならず、安定期から社会復帰を見据えた治療計画を考慮する習慣をつけることができる。精神科医療の特徴であるチーム医療にも対応した治療の流れが明確で、学生・研修医をはじめコメディカルスタッフにも理解がしやすく、教育的にも有効である。ぜひ、本書を活用し、国際的な治療ガイドラインを理解、実践することで、患者さんや社会に標準化された精神科医療を提供するきっかけとしていただきたい。

(横浜市立大学大学院精神医学)

● A5 224 頁 2006 定価 3,990 円 (本体 3,800 円+税) 医学書院